

日本環境学会 第44回研究発表会 プログラム (概要)

1. 開催日時：2018年6月23日(土)、24日(日)

2. 会場：三重大学 生物資源学部

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

会場アクセス

<http://www.mie-u.ac.jp/traffic/index.html>

キャンパスマップ

<http://www.mie-u.ac.jp/campusmap/index.html>

交通機関アクセス

主な交通機関からのアクセスは上記の会場アクセス URL をご覧ください。

最寄り駅は近鉄「江戸橋駅」(急行が停車します)です。会場は、生物資源学部校舎 (http://www.mie-u.ac.jp/pdf/2017_campusmap-j.pdf にある D の建物) です。



会場アクセス キャンパスマップ

3. 費用

①参加費 (予稿集代含む)

一般・シニア会員：6,000円 学生会員：4,000円 非会員：7,000円 (5月13日以降に振込もしくは当日支払いの場合)

②予稿集代：2,000円 (追加購入, あるいは予稿集だけ購入の場合)

③昼食 (弁当) 代 (日曜日のみ)：1食 (お茶付) 800円。希望される方は参加費等とともに事前に振込をお願いします。(学内の食堂は、日曜日は営業していません。会場周辺には複数の飲食店やコンビニエンスストアがあります。)

4. 参加申込について

①事前参加申し込み：同封の振込用紙によるお支払いをもって参加申し込みとさせていただきます。(振込手数料はご負担願います)

②当日参加申し込み：会場にて受け付けます。

※領収書ご希望の方は当日受付にてお申し出ください。

※参加費を納入されて研究発表会をご欠席された場合、納入した参加費の払い戻しはいたしません
が、予稿集はお送りいたします。

5. 第44回研究発表会実行委員会

梅崎輝尚 (三重大学大学院生物資源学研究科, 実行委員長)

伊藤良栄 (三重大学大学院生物資源学研究科, 実行副委員長)

山田二久次 (三重大学大学院生物資源学研究科)

近藤雅秋 (三重大学大学院生物資源学研究科, 予稿集作成部長)

廣住豊一 (四日市大学環境情報学部)

長屋祐一 (三重大学大学院生物資源学研究科, 事務局)

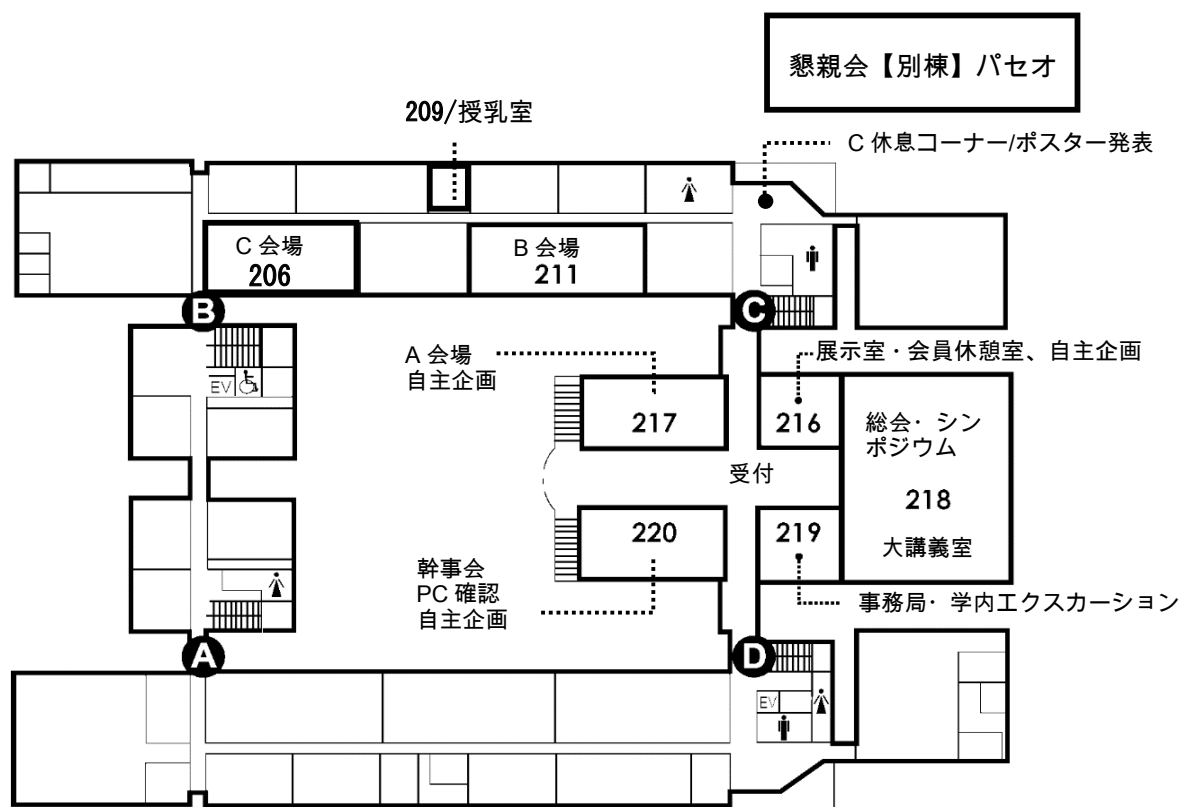
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 三重大学 生物資源学部 資源作物学研究室

E-mail : jaes2018@jaes.sakura.ne.jp

TEL : 059-231-9488 (直通)

FAX : 059-231-9634 (共通ファックスのため長屋と宛名をお書きください)

会場配置図（生物資源学部校舎，2階部分）



受付（2階ロビー）：生物資源学部校舎の中庭にある外階段で2階にお進みください。

A会場（217）、B会場（211）、C会場（206）、ポスター発表会場（C休息コーナー）

自主企画セッション（216、217、220）、学内エクスカージョン集合場所（219）

展示室・会員休憩室（216）、PC確認（220）、幹事会（220）、

総会（大講義室218）、シンポジウム（大講義室218）、授乳室（209）、

懇親会（別棟の生協2階；パセオ）

なお、展示室・会員休憩室は、24日13時45分で終了します。

【重要】 口頭発表を予定されている皆様へ

- ・口頭発表は発表12分、質疑応答3分の計15分です。
- ・セキュリティの都合上、口頭発表にて液晶プロジェクターを使用する場合は、パーソナルコンピューターをご自身でご用意下さい。接続はVGA端子（ミニD-Sub 15 pin）です。この端子以外を利用する方で変換ケーブルが必要な場合は、必ずご自身でご持参下さい。大会事務局では対応致しかねます。

全体プログラム

※報告者の発表日時、演題などについては、「一般報告プログラム」をご確認下さい。

■ 1日目 6月23日(土) 受付8:50～

※【 】内は発表番号

時間	A会場：217教室	B会場：211教室	C会場：206教室
	環境教育・環境哲学①	大気汚染①	震災・災害関連／生態系・生物多様性／自由論題
9:30	【A-1】	【B-1】	【C-1】
9:45	【A-2】	【B-2】	【C-2】
10:00	【A-3】	【B-3】	【C-3】
10:15	【A-4】	【B-4】	
10:30	【A-5】	【B-5】	
10:45	休憩 (15分)		
	環境教育・環境哲学②	大気汚染②／エネルギー①	土壌・水質①
11:00	【A-6】	【B-6】	【C-5】
11:15	【A-7】	【B-7】	【C-6】
11:30	【A-8】	【B-8】	【C-7】
11:45	【A-9】	【B-9】	【C-8】
12:00	【A-10】		【C-9】
12:15 13:15	幹事会 (220教室)		
13:20 14:40	総会 (大講義室)		
14:40	休憩 (20分)		
15:00 17:45	シンポジウム (大講義室) 【S-1】、【S-2】、【S-3】、【S-4】、【S-5】		
18:00 20:00	懇親会 (別棟：生協2階, パセオ)		

■ 2日目 6月24日(日) 受付 8:30~

※【 】内は発表番号

時間	A会場：217教室		B会場：211教室		C会場：206教室	
	環境教育・環境哲学③/ 地球環境①		エネルギー②		土壌・水質②/ 廃棄物・都市問題①	
9:00	【A-11】		【B-10】		【C-10】	
9:15	【A-12】		【B-11】		【C-11】	
9:30	【A-13】		【B-12】		【C-12】	
9:45	【A-14】		【B-13】		【C-13】	
10:00	休憩 (15分)					
	地球環境②		エネルギー③		廃棄物・都市問題②/ 環境経済・環境政策①	
10:15	【A-15】		【B-14】		【C-14】	
10:30	【A-16】		【B-15】		【C-15】	
10:45	【A-17】		【B-16】		【C-16】	
11:00	【A-18】		【B-17】		【C-17】	
11:15	【A-19】		【B-18】		【C-18】	
11:30	休憩 (10分)					
11:40	C 休息コーナー ポスター発表 (コアタイムは11時45分から12時00分) 【P-1】 【P-2】 【P-3】 【P-4】 【P-5】 【P-6】 【P-7】 【P-8】					
12:10	休憩 (50分)					
			エネルギー④		環境経済・環境政策②	
13:00			【B-19】		【C-19】	
13:15			【B-20】		【C-20】	
13:30			【B-21】		【C-21】	
13:45	休憩 (15分)					
14:00	自主企画セッション				学内エクスカージョン	
	220教室	216教室	217教室		219教室	
	地域エネルギー・ ガバナンス 【K-1】 【K-2】 【K-3】 【K-4】 【K-5】	メガソーラー問題と 住民自治 【K-6】 【K-7】 【K-8】 【K-9】	若手発表セッション 【K-10】 【K-11】		(集合場所) 30名限定 (注1)	

(注1) 学内エクスカージョンについて

1日目のシンポジウム終了後に、予約を受け付けます。30名限定です。所要時間は約1時間です。
学内にある風車、ガスエンジン、蓄電池、スマートキャンパス制御室を見学します。

第44回日本環境学会 公開シンポジウム

2018年6月23日(土) 15:00~17:45 三重大学生物資源学部 大講義室

「大学における環境活動」

三重大学は『世界に誇れる環境先進大学』を築き上げることを目指し、地球環境に調和した社会の実現に向け、地球温暖化防止や省エネのための科学技術および社会システムの教育研究を推進して、学内外の資源循環 3R (Reduce, Reuse, Recycle) 活動や低炭素活動にも積極的に取り組んでいます。継続的な環境活動が高く評価され、2006年度に第10回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門環境配慮促進法特定事業者賞を受賞したのをはじめとして、2010年度第二回エコ大学ランキング 総合・国立大学部門 第一位、2017年度環境保全功労者表彰(地域環境保全功労者表彰)など、数多くの賞を受賞してきました。

2014年4月には三重大学の環境方針に基づき、教育・研究を一層推進するとともに、低炭素活動に積極的に取り組むなど、その実現のための環境活動を推進することを目的として国際環境教育研究センターを立ち上げました。総括環境責任者である環境担当理事をセンター長として、各部局から推薦された教職員およびセンター長が必要と認めた教職員と環境ISO学生委員会の代表者を含めたセンター員で構成されています。さらに、2016年4月より文部科学省の予算交付を受け、社会人と大学生を対象とした環境学習・到達度認証システムである、「科学的・地域環境人材 (Scientific, Local and environmental “talented staff” : SciLets = サイレッツ) 育成事業」を開始しました。シンポジウムでは、国際環境教育研究センター関連の3名の方から話題提供していただきます。

また、三重大学は学内の取り組みの他にも地域貢献として様々な形で地元の三重県と環境に関する活動を行っています。今回のシンポジウムでは、農業に関する公共事業実施の際に専門家から自然生態系保全対策に関するアドバイスを行う農業農村整備事業環境アドバイザー協議会の活動と、中山間地域で問題となっている鳥獣害被害の軽減に取り組んでおられる方からも話題提供していただきます。

国立大学の統合が話題になる昨今、このシンポジウムでは三重大学の環境問題への取り組みを例として、地方大学が地域圏大学としていかに地域と連携し、研究・教育活動の成果をどのように地域に還元していけばよいかについて議論したいと思います。

<プログラム> (途中休憩あり)

1. 全学をあげたスマートキャンパ構築による省エネ推進 【S-1】
坂内正明 (三重大学国際環境教育研究センター)
2. 三重大学環境ISO学生委員会の活動紹介 【S-2】
環境ISO学生委員会
3. 社会人と大学生のための科学的・地域環境人材育成事業・サイレッツ 【S-3】
佐藤邦夫 (三重大学国際環境教育研究センター兼務, 大学院生物資源学研究科)
4. 三重県の農業農村整備事業環境アドバイザー協議会 【S-4】
大野研 (三重大学教養教育院)
5. 獣害対策のための体制と人材育成—獣害解決に何が必要か— 【S-5】
山端直人 (兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)
6. 総合討論
コーディネーター 梅崎輝尚・伊藤良栄 (三重大学大学院生物資源学研究科)

一般報告プログラム（連名の場合、○印 報告者）

1日目 6月23日（土）

< A会場：217 教室 >

【座長：高野拓樹】

- 09：30 A-1 エシカル消費を題材にした環境教育（ESD）の実践
飛田満（目白大学社会学部）
- 09：45 A-2 ESD 展開を視野に入れた地域資源の教材化—沖永良部島と群馬の桑茶を事例として—
○萩原豪・豊田正明・美藤信也・佐久間貴士（高崎商科大学商学部）
- 10：00 A-3 大学生に対する農作業を通じた地域理解と ESD 展開
豊田正明（高崎商科大学）・萩原豪（高崎商科大学）・美藤信也（高崎商科大学）・
佐久間貴士（高崎商科大学）・野村卓（北海道教育大学教育学部釧路校）
- 10：15 A-4 情報系科目を通じた地域志向教育研究活動と ESD 展開への可能性
○佐久間貴士・萩原豪・豊田正明・美藤信也（高崎商科大学商学部）
- 10：30 A-5 地域資源を教材とした ESD 展開と地域振興の可能性
美藤信也・萩原豪・豊田正明・佐久間貴士（高崎商科大学商学部）

【座長：飛田 満】

- 11：00 A-6 地域資源に関する環境啓発に向けて～神奈川県秦野市の水資源を事例として～
田邊幸歩・藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学研究科）
- 11：15 A-7 専門高校農業系学科におけるライフサイクル思考を取り入れた体験型環境教育の評価～
総合実習におけるネギの栽培および CFP 試算を事例として～
○津野佑規（新潟大学大学院自然科学研究科，福井県立福井農林高等学校）・
長谷川英夫（新潟大学自然科学系）・水島智史（福井県立若狭東高等学校）
- 11：30 A-8 アクティブラーニング手法を用いた環境・エネルギー教育の実践 ～学生の専門性の違い
にみる原発再稼働賛否に関する意見変化～
○高野拓樹・乾明紀・加藤千恵（京都光華女子大学キャリア形成学部）
- 11：45 A-9 ホウレンソウに含まれる硝酸イオン濃度の減少に対する屋上栽培と竹パウダーの効果
高野拓樹・○園部雅（京都光華女子大学キャリア形成学部）・
森珠実（元京都光華女子大学キャリア形成学部）
- 12：00 A-10 インセンティブと環境倫理
柿沼美穂（国立環境研究所）

< B会場：211 教室 >

【座長：中山榮子】

- 09：30 B-1 児童生徒の喘息被患率推移と大気汚染指標の関連性についての検討 <複合化する光化学
オキシダント公害についての考察 第二報>
木村健一郎（杉並大気汚染測定連絡会）・権上かおる（環境カウンセラー）
- 09：45 B-2 産業道路とその後背地（工場地区・市街地）における，微小粒子状物質の風向別汚染濃
度の比較調査の結果
神戸治夫（川崎から公害をなくす会）
- 10：00 B-3 PM2.5 の常時監視における「マイナス値」発生と“基準達成”の不思議
神戸治夫（川崎から公害をなくす会）

- 10:15 B-4 公害裁判被告敷地に建設する石炭火力発電所と住民運動
伊藤章夫（千葉あおぞら連絡会）
- 10:30 B-5 都市計画道路開通前後の月間計による二酸化窒素（NO₂）濃度測定結果（2）
鳥居雪子・○鈴木一義（市川の空気を調べる会）

【座長：阿部博光】

- 11:00 B-6 金属加工工場隣接住宅内空気清浄機フィルターの分析結果
○新浜勉（近畿大学総合理工学研究科）・中口護（近畿大学理工学研究科）・
後藤隆雄（元神戸大学）
- 11:15 B-7 西日本エリアの電力脱炭素化，変動性再生可能電源の大量連系による電力需給調整解析
竹濱朝美（立命館大学産業社会学部）・歌川学（産業技術総合研究所）
- 11:30 B-8 国立環境研究所のデータベースについて
天谷和夫（元群馬大学）
- 11:45 B-9 環境調査のための簡易測定法と関連技術の進歩に伴う市民活動の新たな展開
天谷和夫（元群馬大学）

< C会場：206 教室 >

【座長：芝池博幸】

- 09:30 C-1 移入種ホンドテン (*Martes melampus*) が佐渡の固有種に与える生態的攪乱及び生物多様性への影響
○後藤唯・本間慎（伝統文化と環境福祉の専門学校）・
桑原佳子・足立高行（応用生態技術研究所）
- 09:45 C-2 「戦争する国造り」反対の最前線 辺野古新基地建設への非暴力抵抗と名護市長選挙
○杉浦公昭（元東洋大学工学部）
- 10:00 C-3 国連のシンクタンク国連大学を活用して非SD 的国际政治を改革する具体的提案
天谷和夫（元群馬大学）

【座長：尾崎宏和】

- 11:00 C-5 金目川水系におけるネオニコチノイド系農薬の流出実態と水環境中のリスク
○梅津麻衣・寺山隼人（東海大学大学院人間環境学研究科，東海大学医学部）・
松本晃一（特定非営利活動法人東海大学地域環境ネットワーク）・坂部貢（東海大学医学部）・
藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学研究科，特定非営利活動法人東海大学地域環境ネットワーク）
- 11:15 C-6 農業用水基準から見た水生植物群落を有するため池の水質
近藤雅秋，○岩倉朱里，加治佐隆光（三重大学生物資源学部）
- 11:30 C-7 鉄鋼スラグ埋立ため池土手から溶出し，水路に流出した汚泥
○後藤隆雄（公害環境測定研究会）
- 11:45 C-8 三重県紀北町の汚染土壌処理施設問題
畑明郎（元大阪市立大学大学院）
- 12:00 C-9 築地市場の豊洲移転問題
畑明郎（元大阪市立大学大学院）

2日目 6月24日(日)

< A会場：217 教室 >

【座長：小堀洋美】

- 09:00 A-11 多方面から農業生産環境を支えるー2016 干し柿シンポジウムの報告ー
林節男 (元富山県立大学短大部)
- 09:15 A-12 環境教育にイタイイタイ病発生源対策の紹介ー神岡鉦山の例ー
林節男 (元富山県立大学短大部)・畑明郎 (元大阪市立大学大学院)
- 09:30 A-13 先進国ドイツにおける市民科学プロジェクトの現状
○宮下 (オースターマン) 絵夢フェリチタス (東京農工大学大学院, ライプニッツ農業景観研究センター (独))・
Nadja Pernat (ライプニッツ農業景観研究センター (独))・渡邊泉 (東京農工大学大学院)・
尾崎宏和 (東京農工大学大教セ)・Doreen Walther (ライプニッツ農業景観研究センター (独))・
Helge kampen (フリードリヒ・レフラー研究所 (独))・
ベリングラート木村園子ドロテア (ライプニッツ農業景観研究センター (独))
- 09:45 A-14 様々なステークホルダーによる市民科学の捉え方, それらによる国際的なネットワーク
○宮下 (オースターマン) 絵夢フェリチタス (東京農工大学大学院,
ライプニッツ農業景観研究センター (独))・
Nadja Pernat (ライプニッツ農業景観研究センター (独))・渡邊泉 (東京農工大学大学院)・
尾崎宏和 (東京農工大学大教セ)・Doreen Walther (ライプニッツ農業景観研究センター (独))・
Helge kampen (フリードリヒ・レフラー研究所 (独))・
ベリングラート木村園子ドロテア (ライプニッツ農業景観研究センター (独))

【座長：武本行正】

- 10:15 A-15 産廃不法投棄問題と市民科学ー四日市市大矢知・平津事案を通して考えるー
栗屋かよ子 (元四日市大学)
- 10:30 A-16 NO₂ 月間計による市民の測定運動
○伊藤章夫・鈴木一義・栗屋かよ子・天谷和夫 (窒素酸化物研究会)
- 10:45 A-17 web を用いた多摩川下流域における外来植物群落を対象とした市民科学の実践
○小堀洋美 (東京都市大, (一社) 生物多様性アカデミー)・
咸泳植・千石遼介・山岸陸 (東京都市大環境学部)・
中西修一 (NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク)
- 11:00 A-18 国際的な生物多様の市民科学のプラットフォーム iNaturalist を用いた日本での検討と展開
○小堀洋美 (東京都市大, (一社) 生物多様性アカデミー)・
戸金大 (東京都市大学)・Hossein Vahidi (慶応義塾大学)
- 11:15 A-19 スマートフォンを用いた国際連携による市民科学プロジェクト
ーCity Nature Challenge 2018 への取り組みー
○戸金大 (東京都市大学)・小堀洋美 (東京都市大, (一社) 生物多様性アカデミー)・
咸泳植 (東京都市大学)

< B会場：211 教室 >

【座長：佐藤高晴】

- 09：00 B-10 工業県の温室効果ガス排出の動向－岡山県 GHG 制度によるデータ分析
歌川学（産総研）・上園昌武（島根大学）・塩飽敏史（水島地域環境再生財団）
- 09：15 B-11 山陰地域の家庭エネルギー消費実態
上園昌武（島根大学）
- 09：30 B-12 ベトナムにおける住宅の居場所と省エネルギー効果について
王陳ロウ（九州大学芸術工学府）・近藤加代子・包清博之・井上朝雄（九州大学芸術工学研究院）・
加藤尊秋（北九州市立大学）・畢亦凡（九州大学芸術工学府）
- 09：45 B-13 自然エネルギーの防災利用に発展性はあるのか
阿部博光（別府大学国際経営学部）

【座長：上園昌武】

- 10：15 B-14 日本と欧州における都市公社による再生可能エネルギー事業の比較
豊田陽介（NPO 法人気候ネットワーク）
- 10：30 B-15 日本における地域熱供給の課題
佐藤高晴（元広島大学総合科学研究科）
- 10：45 B-16 国際太陽同盟（ISA）とインドの Solar Project
○和田幸子（元・神戸外大）・和田武（和歌山大学）
- 11：00 B-17 木質バイオマスエネルギー利用の現状と課題
○和田武（和歌山大学経済学部）・和田幸子（元・神戸外国語大学）
- 11：15 B-18 塩ストレスが塩生植物キヌアの塩囊細胞中の Na 及び K 含有量に及ぼす影響
○町田尚大（東京農業大学大学院）・井上穰二・大島宏行・加藤拓（東京農業大学農芸化学科）・
前田良之（東京農業大学大学院，東京農業大学農芸化学科）

【座長：豊田陽介】

- 13：00 B-19 低炭素発展戦略とカーボンバジェット
○上園昌武（島根大学）・近江貴治（中村学園大学）・山岸尚之（世界自然保護基金ジャパン）
- 13：15 B-20 地域カーボンバジェットの算出～手法開発と課題・展望
○近江貴治（中村学園大学）・上園昌武（島根大学）・歌川学（産業技術総合研究所）
- 13：30 B-21 福島原発事故の被害回復に向けて－震災 8 年目の現状と課題－
除本理史（大阪市立大学大学院経営学研究科）

< C会場：206 教室 >

【座長：粟屋かよ子】

- 09：00 C-10 四日市市内・海蔵川の水質汚濁について
○武本行正・高橋正昭・大八木麻希（四日市大学環境情報学部）・榊正史（東産業株）・
伊藤二郎（四日市市上海老町水利組合）・寺澤爵典（三重県環境保全事業団）
- 09：15 C-11 汚水浄化用簡易接触曝気法の試験結果について
○武本行正・高橋正昭・加藤拓馬（四日市大学環境情報学部）・飯田克己（活水プラント株）
- 09：30 C-12 自動車リサイクルの国際化と関連産業の立地変容
浅妻裕（北海学園大学経済学部）・外川健一（熊本大学法学部）

09:45 C-13 中国の都市生活廃棄物に関する住民意識と政策
○北川秀樹（龍谷大学政策学部）・何彦旻（追手門学院大学）

【座長：高山 進】

10:15 C-14 温暖化等によるヒートアイランド現象の深刻化における緩和行動と適応行動の対立と行動促進要因について—福岡市民調査より—

○陳宇霖（九州大学芸術工学部）・近藤加代子（九州大学芸術工学研究院）・
Leslie Mabon（Robert Gordon University）・包清博之（九州大学芸術工学研究院）

10:30 C-15 廃棄物処理の観点からみた街路樹落葉の堆肥化—広島大学東広島キャンパスにおける事例—
○小倉亜紗美（広島大学平和センター）

10:45 C-16 埼玉県「くぬぎ山」地域の産廃業者周辺における処理形態変化前後の重金属汚染実態比較
尾崎宏和（東京農工大学グローバル教育院）・
一瀬寛（東京農工大学大学院農学府物質循環環境科学専攻）・
北浦恵美・森斌・前田俊宜（埼玉西部 土と水と空気を守る会）・
依田昌幌・柳沼佑貴・久野勝治・渡邊泉（東京農工大学大学院農学府物質循環環境科学専攻）

11:00 C-17 大都市と周辺での地中巨大電力ケーブル設置のハイリスク
○後藤隆雄（公害環境測定研究会）

11:15 C-18 自然共生社会の国際規範をめぐる諸アクターの対応
横田匡紀（東京理科大学理工学部）

【座長：和田幸子】

13:00 C-19 大阪市中之島の景観保全運動に関する歴史研究
大森賢人（株式会社ミカミ）

13:15 C-20 沿岸域統合管理の日米比較から環境政策を考える
高山進

13:30 C-21 中国華南地域における環境政策と環境ビジネス
八木正（鹿児島国際大学経済学部）

<ポスター発表>

【座長：山田二久次】

11:45 P-1 ため池に繁茂する浮葉植物による被度の定量化と変化
近藤雅秋（三重大学生物資源学部）

11:45 P-2 人口密集域における里川像～多自然川づくりの事例をふまえて～
○望月嘉人・藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学専攻）

11:45 P-3 北欧諸都市におけるSPM（浮遊粒子状物質）の現状
○中山榮子（昭和女子大学・院）

11:45 P-4 市民科学プログラムの実践：鶴見川流域の水質調査を事例として
○咸泳植（東京都市大学環境学部）・小堀洋美（東京都市大, (一社) 生物多様性アカデミー）

11:45 P-5 ごみ分別の啓発に関する実践授業の試み～沖縄県宮古島の小学校の実践～
○染谷侑・田邊幸歩・小栗和也（東海大学大学院人間環境学専攻）・
日比慶久（湘南校舎）・藤野裕弘（東海大学大学院人間環境学専攻）

11:45 P-6 簡易目視法基準測定器による粒子状亜硝酸塩の測定による大気汚染行政の改革
天谷和夫（元群馬大学）

11:45 P-7 webを用いた外来植物を対象とした市民科学プログラムの改善と実施のためのアンケート調査

○咸泳植・千石遼介・山岸陸（東京都市大学環境学部）・
小堀洋美（東京都市大,（一社）生物多様性アカデミー）

11:45 P-8 NPO 法人所属の学生会員と連携した環境教育～企画実施までの経緯を含めて～

○鶴田怜志・菊池章仁・佐藤泰基・椿剛史・松本晃一・日比慶久・藤野裕弘

<自主企画セッション> 14:00～

【代表：上園昌武】 地域エネルギー・ガバナンス

220 教室 K-1 地域エネルギー・ガバナンス実現への視座

的場信敬（龍谷大学政策学部）

220 教室 K-2 グローバルな視点から地域における気候保全と持続可能な社会形成をサポートする民間の取組み～気候同盟オーストリアを事例に～

手塚智子（市民エネルギーとっとり）

220 教室 K-3 オーストリア・ニーダーエスターライヒ州の自治体支援制度

豊田陽介（NPO 法人気候ネットワーク）

220 教室 K-4 オーストリアにおけるローカルアジェンダ 21 の展開動向

平岡俊一（滋賀県立大学環境科学部）

220 教室 K-5 オーストリアの中小自治体における気候政策と地域課題の同時解決について

久保田学（公益財団法人北海道環境財団）

【代表：粟屋かよ子】 メガソーラー問題と住民自治

216 教室 K-6 メガソーラー問題と住民自治

○粟屋かよ子（元四日市大学）・西垣博允&西垣千栄子（環境語り部）・

矢田延人（足見川メガソーラー計画から里山を守る会）・

北野興地（東ヶ丘環境を守る会, 卯の里の里山を守る会）

216 教室 K-7 全国メガソーラートラブル・マップと太陽光発電の現状

○西垣博充・笹山こゆり（環境語り部）

216 教室 K-8 足見川メガソーラー問題と住民自治

矢田延人（足見川メガソーラー計画から里山を守る会代表）

216 教室 K-9 愛知県東浦町でのメガソーラー建設問題への取り組み

北野興地（東ヶ丘の環境を守る会, 卯ノ里の里山を守る会前代表）

【代表：知足章宏】 若手発表セッション

217 教室 K-10 なぜ、中小企業の CSR 活動が事業化に至ったのかープロセスを解明し、分析する試みー

榊正史（株式会社東産業 CSV 課, 名古屋大学大学院環境学研究科後期博士課程）

217 教室 K-11 循環型素材の生産システム構築におけるリサイクル事業者の役割

ー協栄産業株式会社の PET ボトルリサイクル事業を手がかりにー

中村真悟（立命館大学経営学部）

